

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2025-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 外山, 義典 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014005

さけます情報

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

そとやま よしのり
外山 義典 (水産資源研究所さけます部門 事業課)

2023 年の北太平洋

漁獲数

2024 年に公表された NPAFC 統計データによると、2023 年 1-12 月の北太平洋におけるさけます類の漁獲数は 7 億 2,757 万尾で、前年 3 億 5,542 万尾の 205%でした (図 1A)。

魚種別に見ると、カラフトマスが 5 億 7,926 万尾で最も多く、全体の 80% (前年比 323%) を占めています。次いでサケが 7,153 万尾 (構成比 10%, 前年比 95%), ベニザケが 6,846 万尾 (構成比 9%, 前年比 73%), と続き、これら 3 魚種で全体の約 99% を占めています (図 1A)。地域別では、ロシアが 4 億 7,109 万尾 (前年比 305%) で最も多く、次いでアラスカが 2 億 3,239 万尾 (前年比 142%) と両地域で全体の 97% 近くを占めています。以下、日本 2,015 万尾 (前年比 62%), カナダ 229 万尾 (前年比 100%), 米国本土 (ワシントン, オレゴ

ン, カリフォルニア, アイダホ州) 161 万尾 (前年比 66%), 韓国 4.0 万尾 (前年比 74%) と続いています。ロシアとアラスカの漁獲数は前年から増加し、特にロシアではカラフトマスの影響で前年比 305% と大きく増加しました。日本とアラスカ以外の米国, 韓国は前年に比べて減少しました (図 1B)。

人工ふ化放流数

2023 年 1-12 月に各国から人工ふ化放流されたさけます類の幼稚魚数は 54 億 2,673 万尾で、前年 49 億 7,913 万尾の 109% でした (図 1C)。

魚種別ではサケが 34 億 9,920 万尾で全体の 64% を占め、これに次ぐカラフトマス 13 億 7,038 万尾と合わせると全体の 89% 以上を占めます (図 1C)。地域別ではアラスカ 18 億 5,606 万尾, ロシア 16 億 3,968 万尾, 日本が 13 億 6,863 万尾, 米国本土 3 億 2,814 万尾, カナダ 2 億 2,251 万尾, 韓国 1,171 万尾となっています (図 1D)。

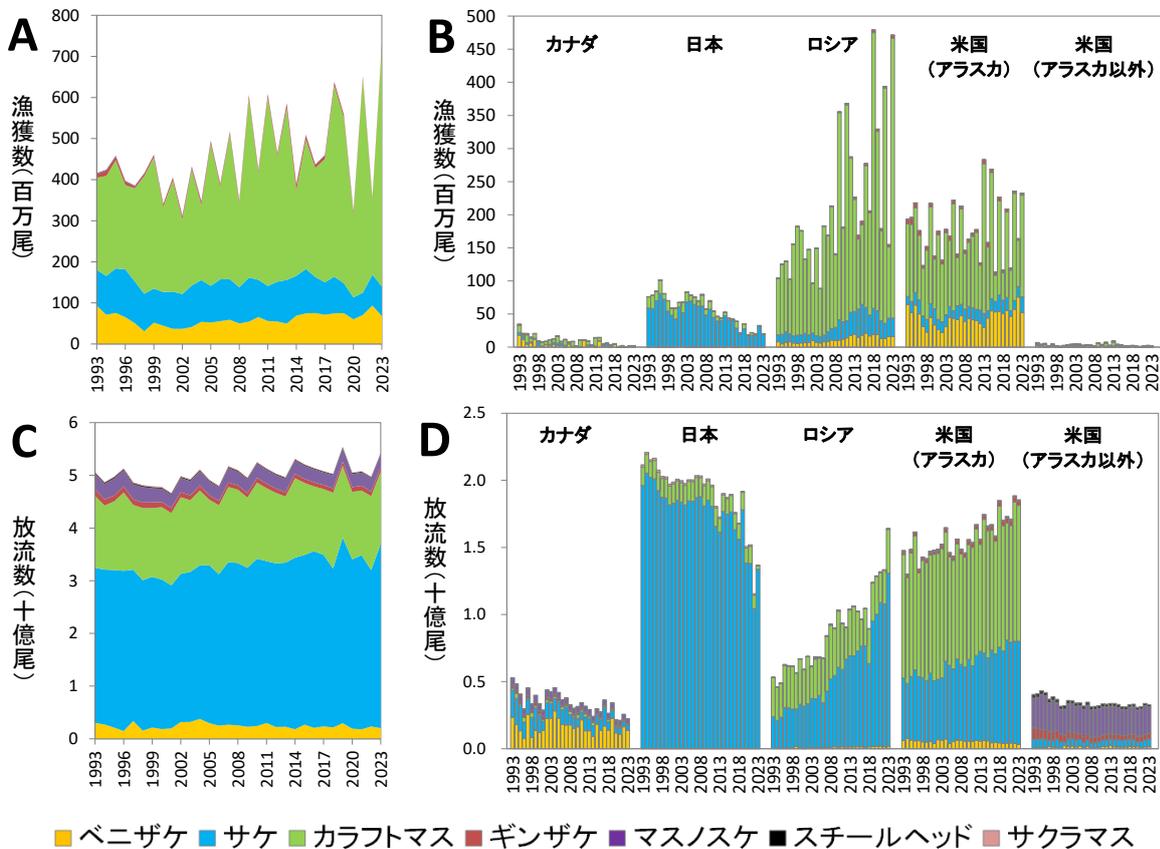


図 1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数 (A), 地域別魚種別の漁獲数 (B), 魚種別人工ふ化放流数 (C) 及び地域別魚種別の人工ふ化放流数 (D)。

A 及び B は「NPAFC Catch Statistics (updated 28 June 2024)」, C 及び D は「NPAFC Hatchery Release Statistics (updated 28 June 2024)」より作成 (参照 2024-9-19)。アラスカ以外の米国はワシントン, オレゴン, カリフォルニア, アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数とも僅かなため図中では省略。

2024 年漁期の日本

サケ

2024 年漁期（2024 年 8 月～2025 年 2 月）の来遊数（沿岸漁獲と河川捕獲の合計）は 1 月 20 日現在 1,786 万尾（前年同期比 78%）となりました（図 2）。このうち北海道では 1,765 万尾（前年同期比 78%）、本州太平洋側では 8 万尾（前年同期比 82%）、本州日本海側では 12 万尾（前年同期比 68%）と、いずれも前年を下回っており、本州は引き続き低い水準となっています。採卵数は 1 月 20 日現在で 10 億 7,235 万粒（前年同期比 81%）となりました。このうち北海道は計画数の 86%、本州太平洋は計画数の 18%、本州日本海は計画数の 53%といずれも下回っており、全国の放流数は計画（12 億 4,036 万尾）を下回ることが見込まれます。

カラフトマス

カラフトマスは 2 年で回帰するため、偶数年級と奇数年級で異なる繁殖集団を形成していると考えられます。主産地の北海道における来遊数の動向を見ると、偶数年級は 2016 年以降減少傾向を示しており、2024 年漁期（2024 年 7 月～11 月）は 3 万尾（前年比 40%）と 1970 年以降で最低の来遊数となりました。奇数年級の来遊数は 2007 年から減少傾向を示しており、2023 年は 9 万尾となりました（図 3）。採卵数は 176 万粒で計画数の 1%となっており、放流数も計画（1 億 2,540 万尾）を大きく下回ると見込まれます。

サクラマス

2024 年漁期の北海道における河川捕獲数は 9,208 尾（前年比 80%）となり、2000 年以降の平均の約 86%となりました。地域別には、オホーツク海区で前年比 87%、日本海区で 79%、根室海区で 50%、えりも以西海区で 31%と、いずれの海区も前年を下回りました。採卵数は 643.4 万粒で、計画数の 100%となりました。なお、2024 年漁期の本州河川捕獲数については現在確認中です（図 4）。

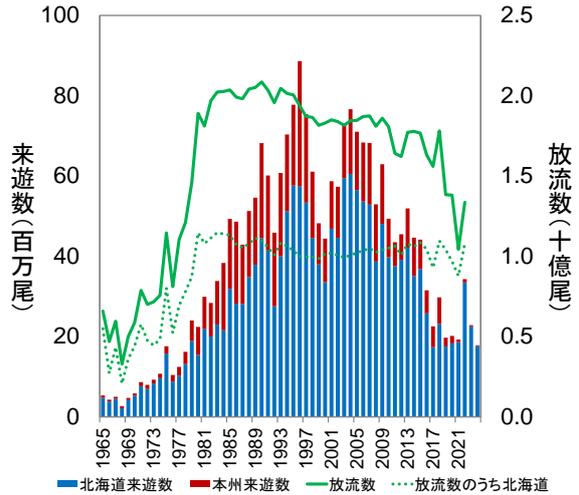


図 2. 日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数（2024 年漁期来遊数は 1 月 20 日現在）。

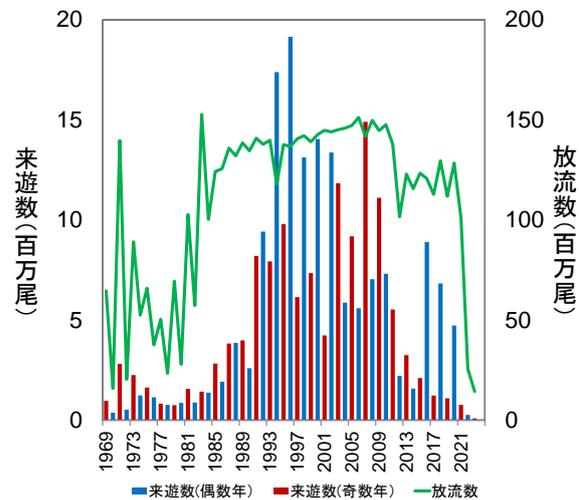


図 3. 日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数。

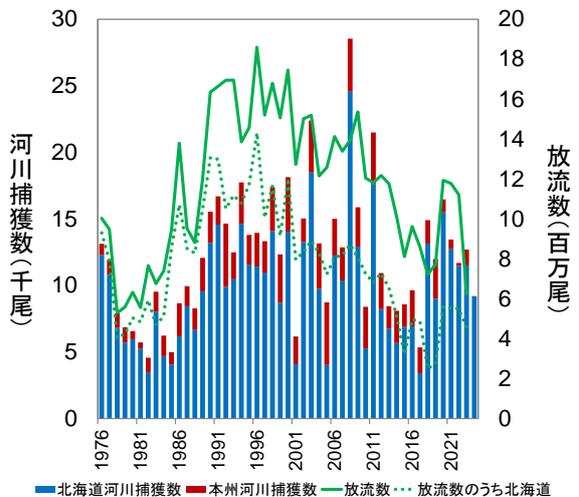


図 4. 日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数（2024 年漁期の本州河川捕獲数は確認中）。